

B 個別学習 (B3)

主な学習活動

「互いに注意し合う」関係について、主人公と相手の立場の違いから考えを深める。

1 本時のねらい

よりよい友達関係について様々な立場に立って考えることで、友達と互いに信頼し合い、時には注意し合いながら、友情を深めていこうとする心情を育てる。

2 主に活用したICT機器・コンテンツ等

電子黒板

ファイル共有

3 参考にしてほしいポイント

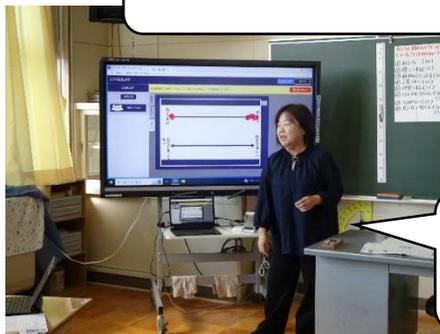
ムーブノート（ミライシード）のスタンプ機能を使うことにより、自分の考えを明確にし、友達の考えと比較しながら考えることができる。

段階場面	主な学習活動	ICT機器活用のポイント
展開	自分が主人公または相手だったら、注意することを伝える時にどのような気持ちを大切にするかについて二人の視点から考える。	二人の立場から考えさせるために「心のものさし」（数直線図）を上下に並べることで、多面的・多角的に考えられるようにする。 スタンプの集計機能を使うことで、友達の考えと比較しながら考えることができるようにする。

タブレット

+

電子黒板



その考え方も僕の心の中にはあるなあ…。

「伝える」と「伝えない」に分かれたけれど、どちらかを決めるのに迷った人はいませんか。

4 活用効果

ムーブノートのスタンプ機能を使って、自分の心情を「心のものさし」に表すことで、自分の考えが明確になり、話すことが得意でない児童も話合いに参加することができた。視点を変えた2つの考えを上下に並べたことで、「互いに注意し合う」関係について多面的・多角的に考えさせることができた。子どもも教師も一人一人の考えを一度に見ることができ、似ている考え方の意見をつないだり、異なる視点の考え方の意見と比較したりして、よりよい議論に結び付けることができた。

5 アドバイザーからのコメント

大人であっても、自分の考えを変えたり客観的に眺めたりすることは極めて難しいです。それを「心のものさし」を並べることで、自分の立ち位置を明確にして、メタレベルで俯瞰できることはすばらしいと思います。この方法は、他教科等の学習場面でも活用できると思います。（東京工業大学 赤堀侃司）

個人の考えを一度表出した後に集約して傾向を見ることは、考える道徳を支える上で効果を発揮しそうです。汎用的なソフトで実施する場合は、一度個別のスライドなどに考えを書き込み、その後共同作業が可能なスライドにその結果を再度書き込むことが考えられそうです。（福島大学 平中宏典）